

適切な機材・資材と設置

本体

- 電圧は**4000V以上**の機械
 - 園地の規模に対して十分なエネルギー**を持った機械
- 参考(本体の選定の目安)
- | | |
|-------------|--------------------|
| エネルギー: 1J | 保全対象の周囲長: 300~450m |
| エネルギー: 1.5J | 保全対象の周囲長: 450~600m |
| エネルギー: 2J | 保全対象の周囲長: 600~900m |
- (* エネルギー(ジュール)は、メーカー毎に測定・計算方法が異なるため、メーカー同士の比較はできません)
- 漏電しても、エネルギーが落ちにくい**機械
 - 園地の規模より強めの機械**
 - 耐用年数の長い機械**

資材

設置

- 商用電源がある場合は、極力活用する
- 本体は、電気柵の内側に設置**
(外側に設置すると、クマに壊される時がある)

アース アースの設置が悪いと、本体の機能を十分発揮できません。

資材

- 長さ、本数共に本体に対応**したものを使用

設置

- 十分な本数**を使用 (機械と立地条件により異なります)
- 十分な間隔**(1m以上)をあける
- アース、アースケーブル共に**全て埋め込む**
- 湿った場所**に設置
- クマが侵入してくる方に設置

支柱

資材

- 電気を通さない素材**
(金属が使用されている資材は極力避ける)
- 弾力性のある素材**
(クマによる衝撃を、柵全体で受け止めるため破壊されにくい)
- 耐用年数の長い素材
- 引き抜きにくく、倒れにくい素材**
- コーナー(角)は、太めの支柱

設置

- 地形の変化が多いところは、本数を増やして、**こまめに変化点に設置する。**
- コーナーの支柱は、やや外向けに設置
(柵線が弛みにくくなる)

ソーラーパネル

強い機械を使用するため、バッテリーの消耗が激しいので、商用電源が使用できない場合はソーラー式がお勧め

資材

- 本体の出力に合わせたパネル**
- 日本海側は、冬期の日照不足に対応するため、出力に余裕を持ったパネル

設置

- 山や木の陰が掛からない場所に設置
- 太陽の方向や角度を合わせて設置**

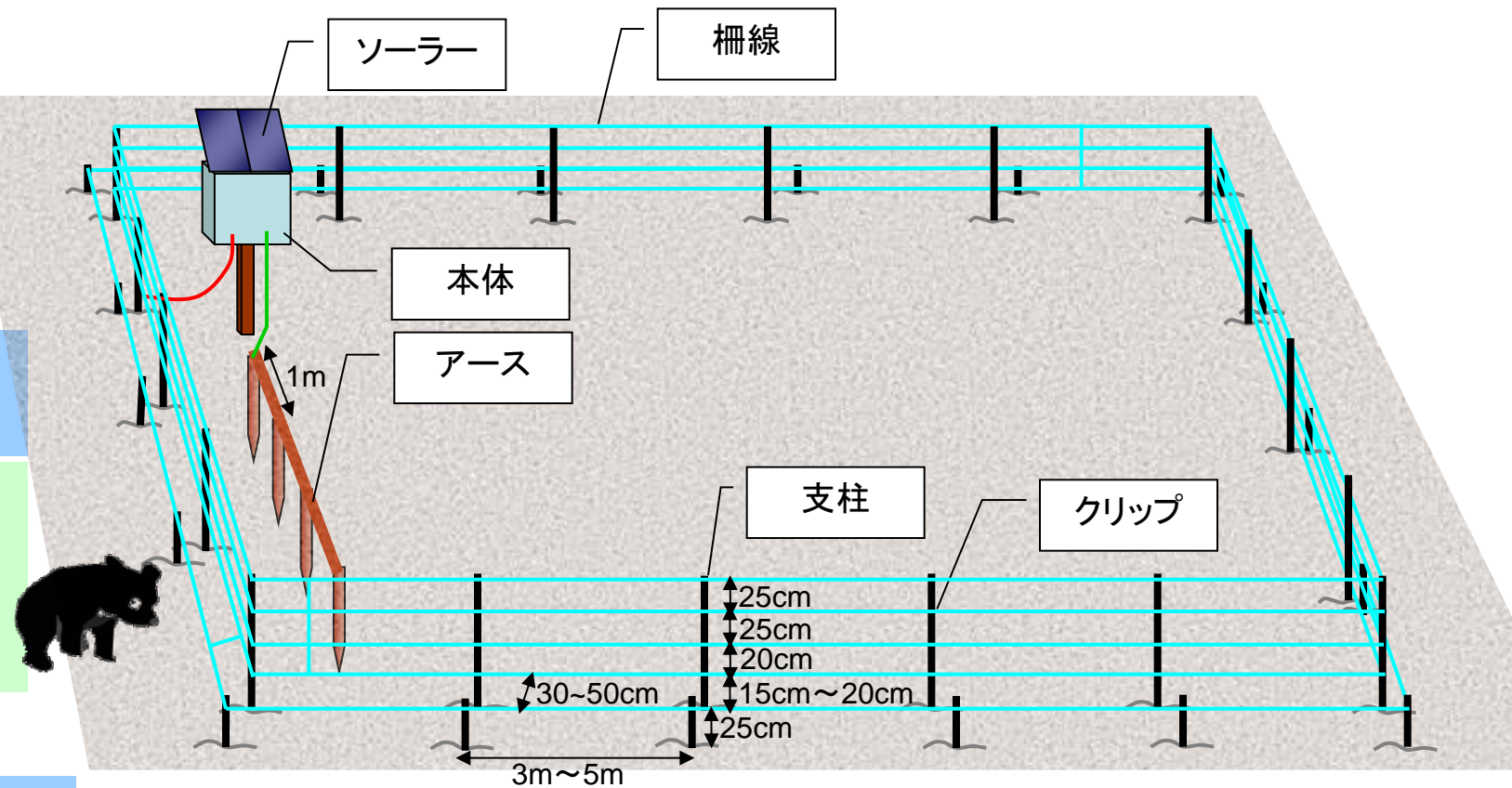
柵線

資材

- ヒモ型の柵線は、約3mm程度
- 内部の金属線が太い素材
- 毎年**回収・設置を繰り返す場合は、樹脂製の柵線**を使用

設置

- 漏電しないように設置
- 地形に合わせて設置**
- 道路やゴムシート、マルチから離して設置**
(できれば1m以上離す)



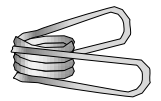
クリップ、ガイシ

資材

- ガラスファイバー製の支柱を使用する場合は、クリップタイプのものを使用する。
(操作性、微調整が容易。)
- その他の支柱を使用する場合はガイシを使用する
(ひび割れ、回転など、こまめな点検が必要)

設置

- クリップの場合、**柵線が外側に来るように設置**
- ガイシを使用する場合は、**ガイシを外側に向けて設置**



クリップ



ガイシ